

5月のコラム ～コロナ対応に見るリーダーの要件～

新型コロナウイルスによる緊急事態が続く中、世界中のトップや全国の知事の決断と発言に注目が集まっています。その言動を通してリーダーの必須要件として二つのことを確信しました。

一つは、リーダーは、自らの役割についてのぶれない理念、使命感を持ち、それらに基づき、自ら決定したことについて、なぜそうするのか目的を明確にし、根拠と理論をもってしっかりと説明できること。もう一つは、過去から学んだことを生かすということ。長期的視点に立ち、目先の利益だけでなく、将来の危機や時代の変化を察知して備えをすること。

一つ目、その人が何に価値をおき何を大事にしているかは明確に「言葉」に表れるものです。人を尊重し、心から発せられた言葉は人の心に響きます。誰にとっても初めての事態であり、最善と判断した結果が裏目にでることもあるでしょう。しかし、「人の命を救う」「経済活動への打撃を最小限に抑える」といった目的がぶれず、判断の経緯や根拠となる理論、理由が説明され、納得できるものであったなら、もし期待する成果がでなかったとしても信頼は失わないでしょう。独自路線の対応をしたスウェーデンが多く死者を出しているにも関わらず、情報の透明性、科学的根拠に基づいた強いリーダーシップにより国民の信頼を得ているという情報は、答えは一つでなく、リーダーに何が求められるかを教えてください。そして、失敗を認め、次にどうするかを示すことは、希望につながります。

一方、政治的思惑や周囲の評価、保身から発せられた施策であればどうでしょう。「やった」という事実が大切なので、目的や根拠があいまいになり、納得のいく説明はできません。行き先が迷走し、混乱と不安が広がるばかりです。また、判断基準が外にある場合、自分が決めたという自覚がないため責任をとることもありません。責任逃れをするリーダーは信頼されなくなるでしょう。

二つ目は、各国や地方自治体のリーダーが、新型インフルエンザやSARSなど過去の経験による学びを生かしてきたかどうかの差があらわになり、重要性を改めて認識しました。

企業経営や職場のリーダーとして下した判断が、過去の経験を活かして、しっかりと準備され、理念に基づいて顧客、会社・従業員の将来、社会を向いてなされたものであり、納得のいく説明をすることで、メンバーは、お互いに協力し合って新しいフェーズに向かって進むことができるのだと思います。

どんなことから学ぶことは多いですね。

2020年5月 水田かほる